

株式会社ヤマツ谷地商店    新造船・第八十六源榮丸が八戸から出港

7 月 3 日、八戸港第三魚市場前から中型イカ釣り漁船の新造船・第八十六源榮丸が、関係者や乗組員の家族が見守る中、五色のテープをなびかせ太平洋の西経漁場のムラサキイカ漁に向け出港した。

本船は水産庁の漁業構造改革総合対策事業（もうかる漁業）を活用して建造した船で、主な改革事業は、長期航海に適した構造にすることで、従来 2 航海としていたムラサキイカ漁を 1 航海に集約し、操業の効率化を図っている。

また、推進効率や燃費性能を高め、LED 主体の集魚灯を多数採用することで省エネ操業につなげる取り組みを行っている。

漁獲したイカの処理場は密閉型とし、衛生管理能力も向上させ、自動で切り分ける装置を導入することで乗組員の負担を軽減させ、省力化を図った。

乗組員の居住区は、全室個室化することで、プライバシーを確保する取り組みを行ったほか、航海中の運動不足解消のためのトレーニングルームを設置し、トレーニングベンチや自転車トレーニングマシンを配置、健康に配慮した環境を整えている。

漁労長は「僚船に後れを取ったが、頑張って操業するしかない。安全操業を第一に大漁を目指したい」と力強く抱負を語った。

出港した第八十六源榮丸は太平洋の西経漁場で 9 月 30 日まで操業し、10 月上旬には八戸港に水揚げする予定。

「海員だより」